

4

本興寺と

釈迦・日蓮・日什一代記彫刻

いちよう小学校前に、日蓮宗別格本山法華山本興寺がある。

万治三年（一六六〇）日経（日蓮宗の僧）の流れをくむ者が法難にあったとき、鎌倉の本興寺もその例にもれず、江戸幕府の弾圧に遇い、日蓮ゆかりの地であった上飯田の地に本興寺を移したといわれている。

鎌倉市大町の本興寺は日蓮上人が辻説法をした地に、中老僧の天目上人が、延元元年（一三三六）にお堂を建てたのが始ま



本興寺・仁王門

りで、永徳二年（一三八二）に日什上人が鎌倉の本興寺に入り、休息山を法華山と改め、伽藍の整備をしたといわれている。

上飯田の本興寺の現本堂は、文久元年（一八六一）に五十五代住職日感上人の時に、総代の羽太良右衛門をはじめ、世話人たちにより、本堂再建募金を始め、明治四年（一八七二）に、当時の住職日身上人の時、再建された。

その時の大工は、伊豆国加茂郡松崎村の馬場右京、彫刻は武蔵国伊那五日市の小川長恒であった。

寺の山門をくぐり、しばらく行くと、天明五年（一七八五）に建てられた、仁王門と仁王像が皆さんを迎えてくれる。本堂の玄関の七福神の彫刻や本堂欄間の釈迦、日蓮、日什の一代記の彫刻は素晴らしい。特に、日蓮の生誕から入滅までの中で、伊豆の配流、文永の法難、龍の口の法難、



本堂唐破風下彫刻



羽太郷土資料館

塚原問答などの場面の彫刻は見る人を圧倒する。

寺の墓地には、当寺の住職日謙、日応、日時の筆子塚（寺子屋の師匠の学恩に報い死後の菩提を弔うために筆子たちが造立したもの）や、南北朝時代の板碑が多くみられる。

寺の周辺には、郷土の民具を陳列した羽太郷土資料館や飯田北小学校郷土資料室がある。

また、大和市と横浜市の境の境川にかかる「ふれあい橋」や、寺の下にあるスーパーマーケット横の道祖神、二十二夜塔、中屋敷天満宮、上飯田せせらぎ緑の道などがあり歴史散策コースとして最適な場所、多くの市民に親しまれている。

5 飯田学校と教師たち

明治五年（一八七二）八月、文部省が学制を頒布したのに伴い、神奈川県は、同六年二月、「神奈川県小学規則」を制定し、近代学校としての小学校を各地に設置した。

学制によると、全国を八つの大学区に分けて一つの大学区を三十二の中学区に分け、一つの中学区を二百十の小学区に分け、それぞれの学区に大学、中学校、小学校を設置する計画であった。

神奈川県は、東京をはじめ近隣の県とともに一大学区に属し、県内を四つの中学区に分けた。

- ・第七中学区 [久良岐郡・橋樹郡]
- ・第八中学区 [多摩郡]
- ・第九中学区 [都筑郡・高座郡]
- ・第十中学区 [三浦郡・鎌倉郡]

（第一中学区より第六中学区は、東京府）

文部省年報によると、上飯田村には、明治六、七年頃「第十中学区鎌倉郡第二百八番小学 飯田学舎」が設置された。

故三橋スミ氏によると明治二十二年頃、飯田学校は飯田

神社の神楽殿かぐらでんを使って授業が行われており、神楽殿の横には先生の住宅があったということであった。皇国地誌に「公立小学飯田学校と称す。東西二間、南北七間三尺面積十五坪、本村西の方にあり。仮に本興寺の堂宇を用いる生徒男三十七人、同女五人、教員一人」とあることから、飯田神社の神楽殿を使う前は、本興寺のお堂を使って授業を行っていたのであろう。

開校当時の教師についてはわからないが、明治十年代には、中和田小学校の初代校長を勤めた山田専成（P 67参照）や専成の弟で横須賀市長を勤めた長野正義の父である長野房吉、持田徳太郎が教鞭をとっていた。

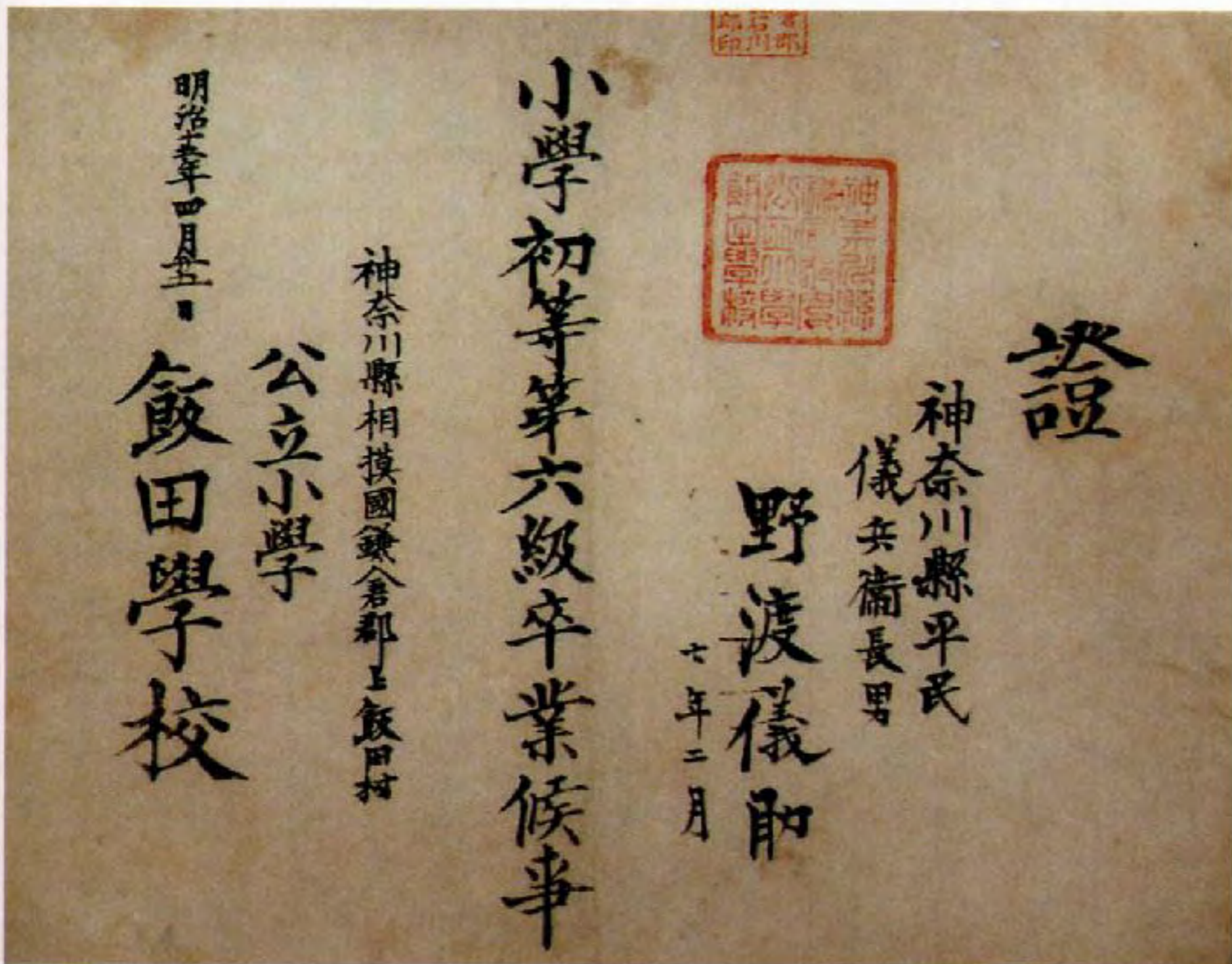
持田徳太郎は、安政四年（一八五七）四月七日、鎌倉郡上飯田村三八〇九番地（泉区上飯田町）に、持田藤蔵の三男として生まれた。

筆子塚（保田三友）によると、徳太郎は、高座郡福田村（大和市福田）の自宅で寺子屋を開いた保田三友に学び、飯田学校の教員になった。

長野房吉は、慶応三年（一八六七）四月二十四日、美濃国中島郡三柳村（岐阜県羽島市正木町）に、山田則秀の三男として生まれた。西郷隆盛と交友があったといわれる薩摩藩士長野良淳の娘（よし）と結婚して、長野姓となった。

明治十八年五月十一日、試験により神奈川県小学初等科

教員の免許を取得し、同年七月二十五日、飯田学校の教員となった。大正十五年二月十日、尋常高等川上小学校校長を最後に退職し、昭和五年まで鎌倉郡戸塚町役場の収入役を勤めた。



飯田学校卒業証書